

対照表

素案（案）	たたき台	備 考																								
<p>第●節 風しん対策 現状</p> <p>○ 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び同法に基づく「風しんに関する特定感染症予防指針」に基づき、市町村、関係機関・団体と連携し、風しん対策を推進している。</p> <p>○ 風しんは、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症であり、免疫のない女性が妊娠初期に風疹に罹患すると、風疹ウイルスが胎児にも感染して、出生児に先天性風疹症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあるによる感染性疾患であり、一般的に症状は軽症で予後良好であるが、罹患者の5千人から6千人に1人程度が脳炎や血小板減少性紫斑病を発症し、また、妊婦が妊娠20週頃までに感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴等を特徴とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性がある。</p> <p>○ 風しんは、風しんウイルスの自然宿主がヒトのみであること、有効なワクチンがあるが、麻しんと比較して不顕性感染が多く、ウイルスの排出期間が長期なため、感染制御が難しい感染症と考えられている。</p> <p>○ 感染症発生動向調査において、全道の報告数は2013年（109人）の流行をピークに全道の報告数は減少傾向であったが、2018年は29人、2019年は43人が報告された。2020年以降は再び報告数が減少し、2020年は2人、2021年0人、2022年1人であった。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">年度</th> <th style="text-align: center;">2018年</th> <th style="text-align: center;">2019年</th> <th style="text-align: center;">2020年</th> <th style="text-align: center;">2021年</th> <th style="text-align: center;">2022年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">全道報告数</td> <td style="text-align: center;">29</td> <td style="text-align: center;">43</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: small;">（出典）感染症サーベイランスシステム（NESID）</p> <p>課題</p> <p>○ 風しんは、風しんウイルスの自然宿主がヒトのみであること、有効なワクチンがあるが、麻しんと比較して不顕性感染が多く、ウイルスの排出期間が長期なため、感染制御が難しい感染症と考えられる。</p> <p>○ 感染力が非常に強い風しんの対策として最も有効なのは、その発生の予防であり、最も有効な対策は、予防接種により感受性者が風しんへの免疫を獲得することである。そのため、国の指針に基づき、定期の予防接種により対象者の95%以上が2回の接種を完了することが重要である。</p> <p>○ このため、定期予防接種の実施主体である市町村とともに未接種の</p>	年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	全道報告数	29	43	2	0	1	<p>第●節 風しん対策 現状</p> <p>○ 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び同法に基づく「風しんに関する特定感染症予防指針」に基づき、市町村、関係機関・団体と連携し、風しん対策を推進している。</p> <p>○ 風しんは、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症であり、免疫のない女性が妊娠初期に風疹に罹患すると、風疹ウイルスが胎児にも感染して、出生児に先天性風疹症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがある。</p> <p>○ 感染症発生動向調査において、2013年（109人）の流行をピークに全道の報告数は減少傾向であったが、2018年は29人、2019年は43人が報告された。2020年以降は再び報告数が減少し、2020年は2人、2021年0人、2022年1人であった。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">年度</th> <th style="text-align: center;">2018年</th> <th style="text-align: center;">2019年</th> <th style="text-align: center;">2020年</th> <th style="text-align: center;">2021年</th> <th style="text-align: center;">2022年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">報告数</td> <td style="text-align: center;">29</td> <td style="text-align: center;">43</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題</p> <p>○ 風しんは風しんウイルスの自然宿主がヒトのみであること、有効なワクチンがあるが、麻しんと比較して不顕性感染が多く、ウイルスの排出期間が長期なため、感染制御が難しい感染症と考えられる。</p> <p>○ 感染力が非常に強い風しんの対策として最も有効なのは、その発生の予防であり、最も有効な対策は、予防接種により感受性者が風しんへの免疫を獲得することである。このため、定期の予防接種により対象者の95%以上が2回の接種を完了することが重要であり、未接種の者及び1回しか接種していない者に対して、幅広く風しんの性質等を伝え、風しんの予防接種を受けるよう働きかけることが重要である。</p>	年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	報告数	29	43	2	0	1	<p>・素案（案）の全体の記載と平仄を合わせた</p> <p>・事務局による字句の修正（現状を追記）</p> <p>・事務局による字句の修正</p> <p>・事務局による字句の修正</p> <p>・「現状」に転記</p> <p>・事務局による字句の修正</p> <p>・意見を踏まえ修正</p>
年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年																					
全道報告数	29	43	2	0	1																					
年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年																					
報告数	29	43	2	0	1																					

対照表

素案（案）	たたき台	備 考
<p>者及び1回しか接種していない者に対して、幅広く風しんの性質等を伝え、風しんの予防接種を受けるよう働きかけることが重要であるが、令和3年度の全道の接種率は、第1期が92.3%、第2期が90.0%であり、1回目接種・2回目接種とも接種率が95%を割り込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道は、予防接種の重要性や副反応等について、道民に対し情報提供する必要がある。 ○ 昭和37年度から平成元年度に出生した男性及び昭和54年度から平成元年度に出生した女性は、定期の予防接種を受ける機会がなかった者や接種を受けていなかった者の割合が他の年齢層に比べて高いことから、これらのうち、罹患歴又は予防接種歴が明らかでない者に対し、風しんの抗体検査や予防接種の推奨を行う必要がある。 ○ 幼児、児童、体力の弱い者等の風しんに罹患すると重症化しやすい者や妊婦と接する機会が多い医療関係者、児童福祉施設等の職員、学校等の職員のうち、罹患歴又は予防接種歴が明らかでない者に対しては、風しんの抗体検査や予防接種の推奨を行う必要がある。 ○ 海外への渡航者は、海外の風しん流行地域で罹患者と接する機会があることから、風しんウイルスに感染して帰国すると、我が国に風しんウイルスが流入する可能性がある。 <p>施策の方向と主な施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 風しんの患者数が減少し、自然感染による免疫増強効果が得づらくなってきたこと、風しんが小児特有の疾患でなくなったことに鑑み、小児科医のみではなく、全ての医師が風しんの患者を診断できるよう、積極的に普及啓発を行うことが重要である。 ○ 道は、定期予防接種の対象者の95%以上が2回の接種を完了できるよう、市町村と連携しながら勧奨を行う。 ○ 予防接種法に基づかない予防接種について、医療関係者、児童福祉施設等の職員、学校等の職員のほか、風しんに関する国の追加的対策の対象者を含む定期予防接種を受ける機会がなかった者や妊娠を希望する女性等が風しんの抗体検査や予防接種を受けるよう、市町村や協会けんぽ等の保険者団体などと連携しながら勧奨を行う。 ○ 海外に渡航する者等のうち、風しんの罹患歴又は予防接種歴が明らかでない者に対して、風しんの抗体検査や予防接種を受けることを、道のホームページ等を活用して啓発する。 ○ 道は、北海道麻しん及び風しん対策専門会議において、関係機関の 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度の全道の1回目接種・2回目接種とも接種率が95%を割り込んでいる。 <p>施策の方向と主な施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 風しんの患者数が減少し、自然感染による免疫増強効果が得づらくなってきたこと、風しんが小児特有の疾患でなくなったことに鑑み、小児科医のみではなく、全ての医師が風しんの患者を診断できるよう、積極的に普及啓発を行うことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局による字句の修正（現状を追記） ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・事務局による字句の修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正 ・意見を踏まえ修正

対照表

素案（案）	たたき台	備 考
<p>協力を得ながら、定期的に風しんの発生動向、各市町村における定期の予防接種の接種率及び副反応の発生事例等を把握し、地域における施策の進捗状況を評価するもとともに、それらを踏まえ、また、関係機関等との連携の下、道民に対し、風しんを及び先天性風しん症候群に関する正しい知識に加え、その予防に関する適切な情報提供するとともに、風しんの定期の予防接種の円滑な実施に取り組んでいく。</p>	<p>○ また、風しんとその予防に関する適切な情報提供するとともに、風しんの定期の予防接種の円滑な実施に取り組んでいく</p>	